

セルブロック用の細胞の固定と輸送について

202310

セルブロック作製依頼については、お使いになる研究目的によって固定方法を配慮頂く必要があります。

固定方法

1)セルブロックでの検討後に「保有または購入ヒト組織材料」を染色する可能性がある研究の場合

- 「ヒト組織」と同じ固定液を利用し当社へお送りください。
- 通常、ヒト組織の固定液には「10%中性緩衝ホルマリン液」が繁用されております。
- 培養細胞の場合の固定時間は室温30～60分を推奨としております。固定後はPBSに置換して冷蔵でお送りください。
- 他、組織を用いた免疫組織染色のControlを想定している場合（強制発現細胞、ノックダウン細胞等）も同様です。

2)セルブロック由来の薄切切片を研究目的に利用する場合

- 実験動物を対象として固定方法に拘らない場合は、「4%PFA(4°C)にて2時間固定後、PBSに液交換して」で弊社へ速やかに配送(4°C)ください。

1) 接着細胞の場合:

- 培養容器から剥離後に細胞数をカウントしていただき提示細胞数以上あることを確認してください。(5 × 10⁶個以上。多い分には問題ありません。)
- 遠心後、上清を除去し、そこに固定液(前述)を入れて頂き、固定した状態で送付ください。(この時に固定液中の細胞数を再度確認頂いたほうが良いかと思えます。)

2) 浮遊細胞の場合:

- 細胞数をカウント頂き、提示細胞数以上になるだけのカルチャースープの状態です。遠心後、上清を除去し固定液(前述)を入れて、固定した状態で送付ください。(弊社希望、5 × 10⁶個以上。多い分には問題ありません。)

材料細胞の処理と輸送方法

・ 輸送方法:

- 輸送容器一杯に固定液を入れてお送りください。空間があると細胞が乾燥してしまうこと、固定細胞が容器に吸着してしまうことがあります。
- 固定液浸漬後、冷蔵で12-24時間以内に当社に到着する様に手配をお願いします。
- 上記時間を超えての弊社到着の場合には、PBSに交換してお送りください。
- 培養細胞に関しては、**金土日、祭日とその前日**は検体の受取はできませんので、その点に関してはご了承ください。難しいようであれば、まずはご相談いただけますと幸いです。

材料を輸送していただく場合(梱包例)

図3



検体に直接保冷剤が触れていると検体が凍ってしまうため緩衝材などを介して保冷剤を入れるように注意。また、保冷剤をたくさん入れすぎても箱内の温度が下がりすぎて検体が凍るので注意。

図4



底にクッションを入れる



ビニール袋を2ないし3枚かぶせる



容器を立てている



容器が倒れないように間にクッションを入れる(特にヒストパックの場合)



袋を縛る①



袋を縛る②



隙間にクッションを入れる



隙間にクッションを入れる